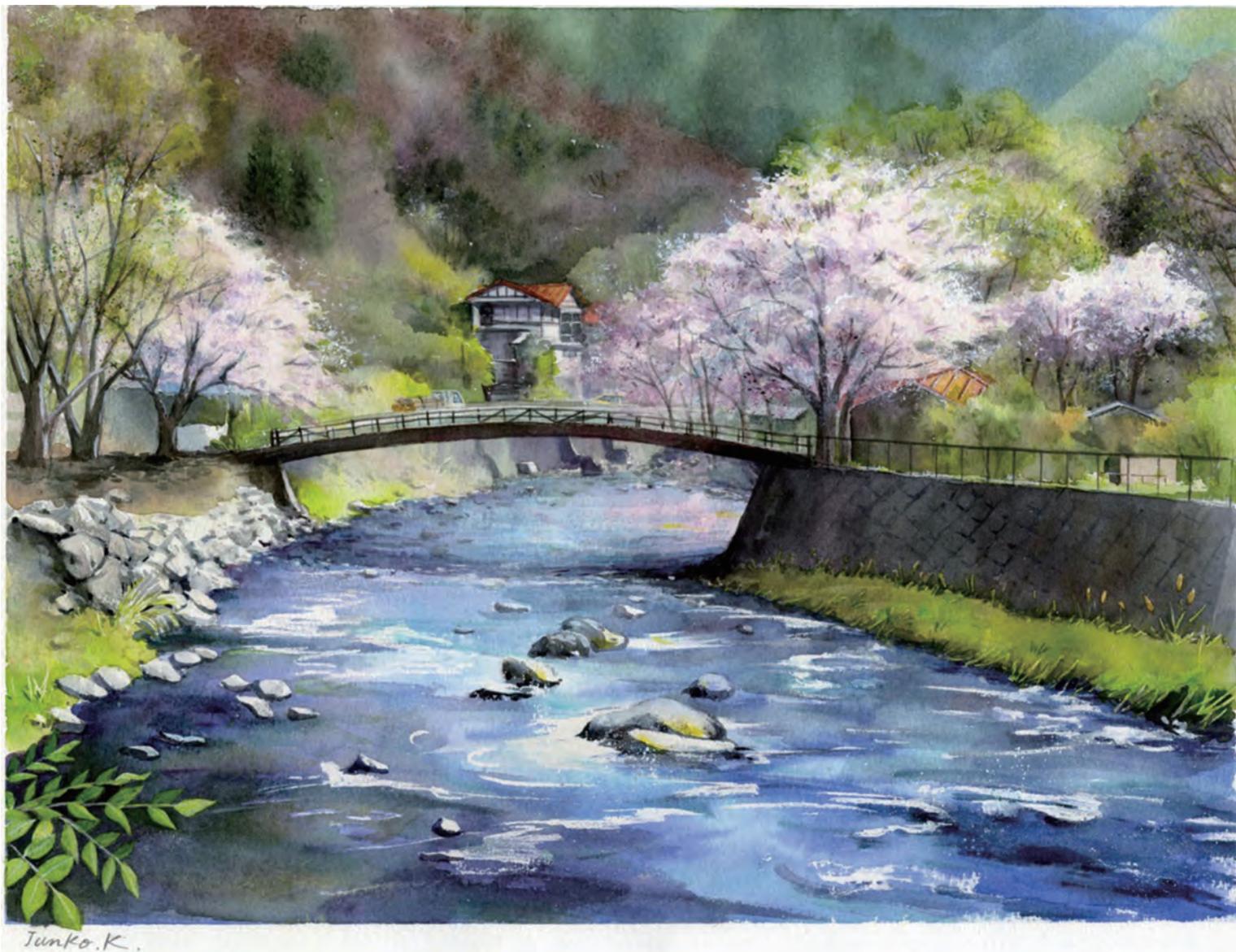


[ドウシ・テ]

# 道志 手帖

Summer 2017 no.16



## gallery \* 道志村の春

画・香取順子 文・香取完和

道志へは林業の関係でたびたび伺っていますが、  
道志の落ち着いた四季折々の風景が楽しみのひとつです。  
東京の桜が散ってしまったころ、道志を訪れたら満開でした。  
清流と合わせ、満喫のひと時でした。

## Contents



表紙写真

撮影：香西恵（2017.5.9）

5月、レストランたんぼの玄関前を彩る藤の花。国道を通る人々の目を楽しませてくれます。

What's  
"Doshi-techo"?

### 「道志手帖」とは？

略して「ドウシテ」。「どうしてどんどころ？」という関心から生まれた、道志村地域おこし協力隊を中心とした有志による冊子です。村で生活していて気になったこと、おもしろいなおもったこと、発見や驚きを、年4回報告していきます。2016年度からは新しい書き手による誌面をお届けします。書き手は常時募集しています。どなたでもお気軽にお問い合わせください。



### [特集1]

## ホタル舞う清流へ …4

ホタルを育てる一年間／道志ホタルまつぶ

### [特集2]

## 水と生きる－神地 水害の記録－（前編） …7

道志中学校「新巖道峠…共に生きる」

### [連載]

どうしの山 山みちマップ④菜畑山 石川敬子 …10

協力隊だより⑮ …12

手造り遊び用具⑤しっぺいこま 仲井義晶 …15

〈新連載〉野の幸山の幸①ミズ …15

お仕事拝見⑤山本エリさん 仲井義晶 …16

みなもと体験館イベント参加⑤  
五感で楽しむ木工体験「桧琴」 佐藤八重子 …16

# ホタル舞う清流へ



午後8時 林間広場にて(2017.6.20)

6月、暗闇にホタルの光がポツリポツリと見え始めます。道志で見られるこの風景は、人の手によって維持されているものだということを知っていますか？

ホタルの光をこれからも絶やさないためには、何が必要なのでしょう。村でホタルを守る活動をしている「七里ホタルをともし会」(代表 佐藤光男<sup>みつお</sup>さん/事務局 道志村観光協会) (以下、会と表記) にお話を聞きました。

かつては道志でもいたるところで天然のホタルを見ることができましたが、いつの頃からか、その数は減ってしまいました。

原因はさまざまです。一つは、水辺環境が変わってしまうこと。ホタルは一生のあいだに水中、地中、地表とすみかを変える生きものです。どれか一つでも環境が変わってしまうと住めなくなってしまう。たとえば、水路がコンクリートで舗装されたり、台風で川が増水したり、農薬などで水質が変わったりすること、またそれによってホタルの食物

※2「道志村ホタル祭り」:今年で31回目を迎える。今年はホタル鑑賞会として6月23日～25日林間広場にて開催。

月日	ふ化数 (匹)
7/11	10
7/12	40
7/13	65
7/14	200
7/15	770
7/16	500
7/17	300
7/18	250
7/19	260
7/20	308
7/21	116
7/22	54
7/23	50
7/24	56
7/25	40
7/26	30
7/27	30
7/28	20
7/29	15
7/30	20
7/31	15
8/1	13
8/2	5
合計	3,167



◀平成28年、採取した5匹のメスの卵のふ化数。ゴマ粒ほどの小さな幼虫を一匹ずつ毎日数えた貴重な記録。日によってふ化数が大きく違い、7/14～21の一週間にふ化が集中していることがわかる。（事務局の観察メモより表を作成）

\*次頁に地図があります。  
ホタルを見に出かけてみませんか？

となるカワニナ（水辺に住む巻貝）がいなくなってしまうことが大きな原因です。ほかにも街灯など人工的な灯りが増えたことなど、さまざまなことがホタルに影響を与えています。

会は、平成21年に発足して以来、「水源基金」(※1)を活動資金として、村内の10名ほどの個人会員とともに、ホタルを増やす取り組みや、ホタル祭り(※2)の開催に協力してきました。

オーナーや会員を募集して「ホタル池」を整備し、そこへ購入したホタルの幼虫を放流してきました。平成26年からは、村内で採取したホタルやカワニナを育てる養殖事業にも取り組んでいます。先進地の視察で学んだ方法を、徐々に道志でも取り入れてきました。

「ホタルは結果が分かるまでに5年かかる」と代表の佐藤光男さんは言います。せっかく成果が出て来ても、台風などで環境が変われば、一瞬でいなくなってしまうからです。

自然相手の時間のかかる取り組みだからこそ、ホタルを守るには、「二人でも多くの人が、身近なホタルに関心を持ってくれることが一番」なのです。

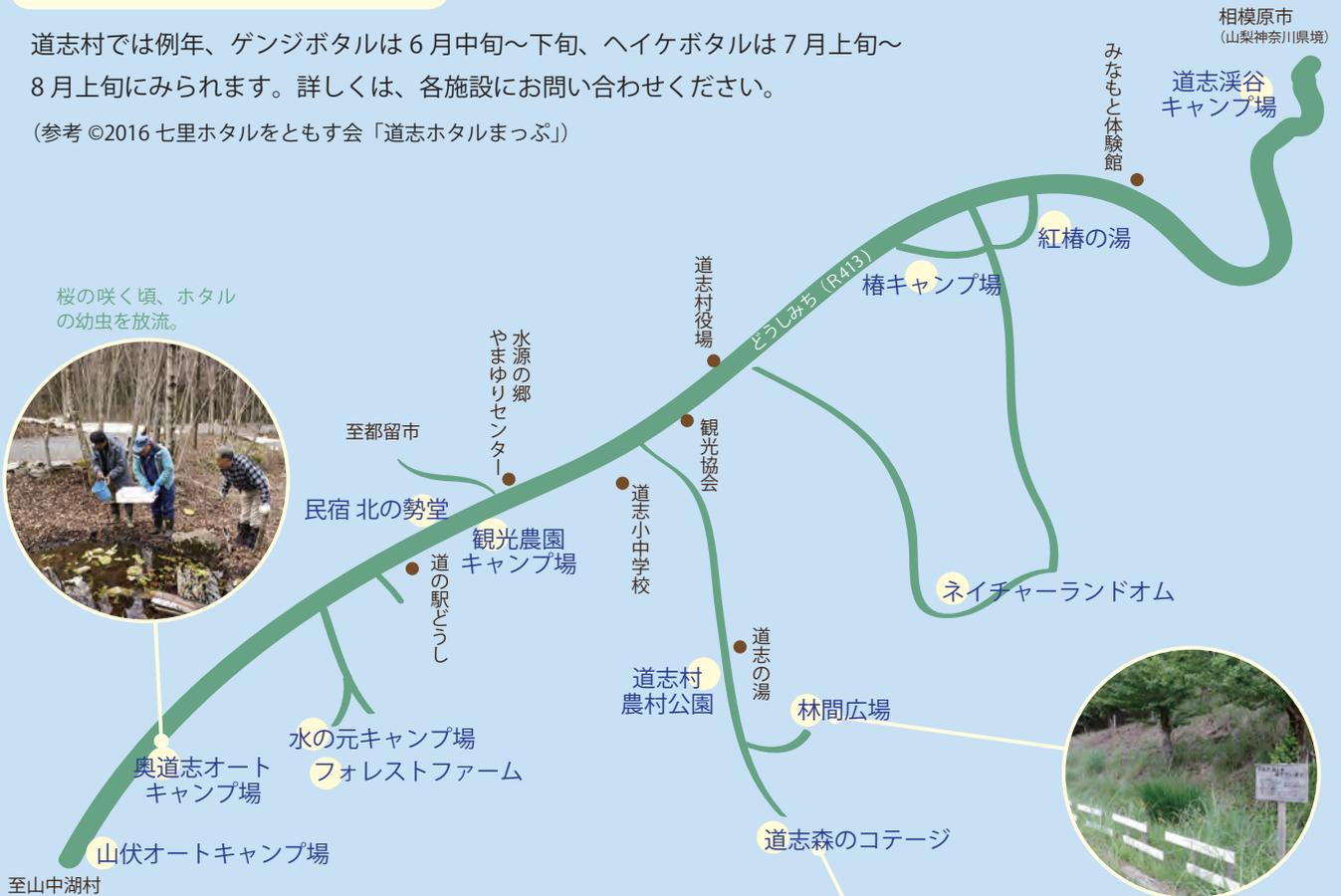
(香西恵)

※1「公益信託道志水源基金」：横浜市の水源地である村の「自然環境の保全活動及び社会生活基盤の整備」などに助成するもの。

# 道志ホタルまっぷ

道志村では例年、ゲンジボタルは6月中旬～下旬、ヘイケボタルは7月上旬～8月上旬にみられます。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

(参考 ©2016 七里ホタルをともし会「道志ホタルまっぷ」)



## ホタル鑑賞のお約束

- その1 施設での鑑賞は、事前に連絡をして確認を取ること。  
(施設入場料等がかかる場合があります)
- その2 ホタルを捕まえないこと。
- その3 ゴミを捨てない・川を汚さないこと。
- その4 静かにすること。
- その5 マナーを守ること。



カワニナの養殖装置。ホタルを増やすには、カワニナを増やすことが肝心。



村内各地にホタル池を整備。

## ホタルを待ちながら…

午後7時半、ホタルを待っていると、すぐ近くでフクロウやホトトギスが鳴き始めました。虫が飛び、カエルが鳴き、林からガサゴソと音が聞こえてきました。ホタルのいる場所は生きものの気配で満ちています。



## 「七里ホタルをともし会」で一緒に活動しませんか？

ホタルに関心を寄せる人が一人でも増えることが、ホタルの復活につながります。ご関心のあるかたはぜひご連絡ください。[お問い合わせ] 七里ホタルをともし会 (道志村観光協会内) ☎ 0554-52-1414

# 水と生きる

## — 神地 水害の記録 — (前編)

大正9年8月、台風の通り道となった神地地区では、洪水や土砂崩れによる家の崩壊で、命を落とす人や行方不明者が出るなど、大変な被害がありました。約100年前の出来事ですが、その内容は今もさまざまなことを教えてくれます。前編では、水害を題材にして道志中学校で上演された劇の脚本を、次号の後編では水害に関連する記録を紹介します。

ナレーション  
ひいおばあさんが生まれる少し前の1920年、大正9年の8月のことです。道志の谷も夏の暑さで作物が成長していました。村人は、農作業に追われていました。

### ① 雨の降り始め

里帰りの男

おとう

里帰りの男

おとう

おとう

おとう

おとう

おとう

ナレーション

おとう

おとう

おばあ

おとう

おかあ

おとう

おかあ

おとう

おじい

おとう

おばあ

おかあ

幕を開ける

(おばあが糸取り作業をしている、糸車を回している)(おとうが雨に濡れた状態で入ってくる)おけえり

(籠をおろし濡れた服を拭くしぐさをしながら)ひでえ雨になった 全部うないきれなかったけど、けえってきたあ

(囲炉裏のところでこね鉢で煮込みうどんをねるしぐさをしながら)おとう 煮込みに入れる菜っ葉採ってきたかあ

おお、はいよ(籠から出して おかあに渡す)(玄関先に出て)今日の雨はなかなかやまないなあ(不安そうにしている おかあの方を向いて)子どもはどうした

善之木のうまれうち(実家)に泊まるって言うから連れてったよ

そうか 茶をくれ(おかあがお茶を差し出す)(囲炉裏端で無言 キセルをふかしている)

(強い雨の音)その日の雨は、やまずに降り続けました。夜遅くになっても滴のような雨が降り、地面は川のようになっていました。

(家族4人は囲炉裏の周りに集まっている)こんな家に降ったんじゃあ 寝てられないな ほかの家のことも心配だけどこのひでえ雨じゃあ出られないな

子どもはどうしたか心配だなあ(石が流れる音がする)

おとう

おかあ

おじい

おとう

おかあ

おとう

おかあ

おじい

おばあ

おとう

沢がくずれているのかな ちよつくら 沢を見てくらあ

おとう 気がつけろ 低いところに行くよ

(家から出るがしばらくしてもどる)雨はひでえし 暗いのでよくわからない、でもあの音からすると沢がくずれて石が流れているようだ(囲炉裏を囲んでうとうとしている姿でいる)(辺りが暗くなる)幕を閉める

(ステージ前の照明を明るく)(小鳥の鳴き音がする)

(おとう おかあ おばあ おじい の順にステージ前に出てくる)(辺りを見回して)夜が明けて良かった 少し降ってるけど だいぶ落ち着いた

(ステージ上から遠くを見回す 指さす)ひでえなあ そこらじゅうの沢がくずれているぞ 沢が白くなっている

白くなっているのは御影石がむき出しになったからだ

(ステージ前方を見ながら)川があふれそうだ(かわのちかくに村人を見つけて 大きな声を出すために手を口に近づけて)たけお、気をつけろ あまり近づくとあぶねぞ

この雨はいつやむだあ(空を見上げる)

おとう

でも、どの家も無事で良かった。このままやめば一安心だ。さあ飯だ。  
 (おとう、おかあ、おばあ、ステージ内にもどるおじいだけいつまでも空を見つめている。(心配そうに、そのあと、もどる。))

幕は閉まった状態

一夜が明けると、豪雨によって沢がくずれたり、川があふれたりしていた。でも、集落への被害はなかった。しかし、折れた木やくずれた石垣掘れた道など、雨の中で村人は片付けに追われた。昼頃には雨雲も切れて薄日も差すようになった。雨もこれで終わりかと安心していった。(家の者は、作業している。囲炉裏におじい)

④豪雨の始まり

ナレーション

幕を開ける  
 雨はこれで終わりではなかった。夕食で人々が安心して夜8時頃から、また雨あしが強まった。雨が滝のように地面に打ち付けた。桶をひっくり返すようなものすごい雨によって、雨水がくずれた沢、増水した川に集まっていた。

⑤身の危険

(豪雨、雷の音)(石のぶつかる音)(戸を叩く音)  
 誰か来たぞ(玄関戸のところに4人は行く)

おかあ  
 村人男1  
 (中に入ってくる)おい、川があふれ大変だ、それに、木が流れてきているぞ、橋も流されたこのままだどこの辺の家が全部流されるぞ

村人男2  
 川つぶちの、低いところの家の者は、高いところに逃げていますよ

村人男1  
 ここもそのうちに危なくなるよ、高いところに逃げたほうがいいぞ、おれは、まだ、となりの家にも言わなければならぬから行くけど…(その場を去る)

⑥土石流

おかあ

(囲炉裏端に集まる)  
 うちも逃げようか

おとう  
 雨がひでえしなあ(決めきれず)おじい、どうする

おじい

おれはここにいて、高いところに行っても山から来るからなあ、行くことねえよ(自分自身で納得したようにうなずきながら)

⑦救助

村人男2

おとう

村人男1

おとう

おかあ

おとう

おかあ

おとう

村人男1

おとう

村人男3

村人男4

村人男2

少女

村人男1

村人男3

村人男1

村人男4

おとう

おとう

村人男1

村人男4

おとう

村人男1

村人男3

村人男1

村人男4

おとう

村人女1

女2、おか

あ、おばあ

(戸を叩く音、慌てた様子)

◇◇の家が流された

なんだと、そりゃあ大変だ、家の者はどうなった

わかんねえ

おれも行く(出かける支度をして)

おとう、気をつけるよ

ステージを暗くする

ステージ脇の入口から、村人がでてくる

(おとう、村人男1、2、3、4が連れ立って)

ひでえな、屋根が流されている、誰かいるかなあ

(暗闇客席側に、叫ぶように)誰かいるか、返事しろ(ここから先に行けない所まで行って叫ぶ)

おーい

なんか聞こえるぞ

たすけて〜(泣いている)

(提灯をかざして)子どもがいるぞ

どこだ

あの木の上だ

がまんしろ、今助けてやるからな

俺が縄持ってくるあ(入口から入る)

(村人女1、女2、おかあ、おばあが出てくる、入れ替わりに村人男4人が救出のために入口から入る)

⑧絶望

ナレーション

集落の川に近い家、沢に近い家は土石流と共に流された。家と逃げるひまもなく流された人々。土石流は、すべてのものを飲みこんでしまった。暗闇の中で、その夜おこったことのすべてはわからなかった。

一夜が明けると、村は一変していた。山の至る所がくずれ地肌が見え、道志川は濁流が荒れ狂っていた。橋は流され、沢から流れ出た土砂、樹木が濁流をせき止めるように折り重なっていた。流れる場所を失ったために自然のダムができてしまった。そのため多くの家が水没していった。

(村人1、2が川を見つめながら)

川がせき止められたから、どんどん水かさが増えていくぞ

中山橋も流された。俺たちの家や畑がなくなっていくぞ

(村人男3、4、おとうが入ってくる)

流された家の人はどうなったか心配だ。

川の近くが危ないから高台に逃げた人は、沢からの水で流されたらしいぞ…

まだ水かさが増えるから川には近づかない方がいいかもしれないねえ

これじゃあ、手が出せない、俺たちにはどうにもできない、くやしいなあ

(村人女1、2、おかあ、おばあが入ってくる。全員黙った状態で沈んでいる)

こんなことしてられないぞ、どこかで助けを呼んでいるかもしれないぞ

そうだ、探しに行こう

いいか、男しは、探しに行くぞ、女しは、○○の家で飯の支度と風呂を湧かしておけ

(それぞれ分かれていく)(おじいだけは、一人で最後にもどる、ステージ内に入る)

ステージを明るくする

(女たちが忙しそうに、動いている)

(男たちが入ってくる)

（お茶の入った茶碗をお盆ごと男たちに差し出す）

おかあ

村人男1

〇〇さん どうだった  
（言いたくない様子 男同士が顔を見合う）…でも  
〇〇の所の△△は、流されたけど木に引っ

村人女1

かかって無事で良かった。

村人男2

さつき村役場の人が来たぞ その辺にいるかも

村人男1

（お茶を飲み干して）ちよっくらまた行ってくるか  
（男たちが連れ立って出て行く）

⑨ 救援

ナレーション

次第に被害の全貌が明らかになった。豪雨は、道志川の  
上流の一部に被害が集中した。かろうじて災害をまぬがれた集落の人々や村中からの支援によって、懸命の捜索や後片付けなど行われた。また、住む家を失った人は親戚に身を寄せた。災害から数日経った。

ステージを明るくする

役場職員

（家族4人と女の子がいる）

こんにちは、村役場の佐藤ですが、このたびは大変なめにありましたなあ 村でも全力で復旧しますのがんばってください。明日県から支援物資が到着します。この家に持ってきていいですか。

おとう

お願いします。

役場職員

午後1時にこの家にみんな集まるように伝えてください。

おとう

わかりました。お願いします。

おかあ

（役場の人は立ち去る）ちよっくら ふれてくらあ（おとうも出て行く）

少女

（女の子に向かって）〇〇ちゃん しんぼうしな。そのうちきつといいことがあるから

村人全員

（村人全員が集まっている）（話し声）

県の役人

このたびは、災害に遭われ、つらい思いをされたと思います。県からの災害支援物資を持ってきました。道もくずれていたために到着が遅れたことをお詫びします。早く復興することを祈念申し上げます。

役場職員

（村人は頭を下げる）

おとう

村としても今後全力を尽くします。必要なことは何でも言うてください

村人男1

（県の役人と村職員はその場から立ち去る）

村人男2

なあみんな、これからどうするかだ

村人男3

村中から助けに来てもらって本当にありがたい。家の片付けは、なんとかできた。これからのことみんなで相談しなければなんないな

おとう

そうだなあ おれたちだっていつまでもこのままでも困る

村人男4

でも、このむらの多くの家や畑が流されて、このままではとても住めねえ状態だぞ それにもう親戚を頼ってほかの所に行った者もいる

村人女1

こんなに川幅が広がって湖みたいになってしまつたから また大雨が来れば、残りの家も終わる

村人女2

どうやって生きていくかみんな考えてえ

村人男1

（うなずいて）もう、神地のこの場所を捨てるしかないな

村人男2

おれたちやあ、ずっとここに住んできた、捨てるって言うても他にやあ行くことは出来ねえ

村人男3

そうだよ（みんなうなずく）

村人男4

少し不便があつても 高台に移るしかねえな

おとう

畑が足りなければ木を切り、根っこを掘ってつくろう

村人男1

（村人の意見が一つになる）

村人男2

この家は流されなかつたから、ここに住み続けるよ

村人男3

何言ってるんだあ ここだって また大雨があればあぶねえぞ

村人男4

先祖さまからみんなで、ずっと助け合ってきた みんな一緒だよ 流された家はみんなで建てるし、この家だってみんなでこわして 新し

おとう

おじい

い場所に建て直してやるよ、いいな  
（迷いながら）うん おじい それでいいかい  
いいとも（深くうなずいて）わしが小さい頃も  
水害があつたんじや 何軒か流されたよ でも  
村の者みんな流れた材木を拾い、木を切り  
出して家をつくった 石だらけの畑も直したよ  
どこかで悪いことがおきれば、みんなで助ける  
それは ここに生きる者のつとめだよ この家の  
梁や板だつて新しく建てる家ですつてくれ  
この家は小さくなくてもかまわないよ

⑩ 復興

ナレーション

（おじい以外はステージから出る）  
村人は、話し合いを重ね 将来の事を考え 地区全体を高台にうつすことを決めた。しかし、土地のことや資金、人手などたくさん課題があつた。しかし、村や道志村民の協力によってなんとか移転の計画を実現することができた。  
〇〇の家を解体する日が来た

おじいにスポットライト

おじい

（大黒柱に手を添えて）（涙声で）  
今まで、ご先祖さまから何代もこのうちを見守ってくれてありがとうよ 新しい場所に移すけど、これからはずっとおれたち、子や孫の代までずっと見守ってくれよな 頼むよ  
（そのままの状態にいる）

おとう

ステージを暗くする

（家を解体する音）

（全員ステージに並ぶ）

（代表者のあいさつ）

（感想）

（あいさつ）

（礼）

（幕を閉める）

（出典）

（道志中学校）

（『新巖道峠』）

（共に生きる）

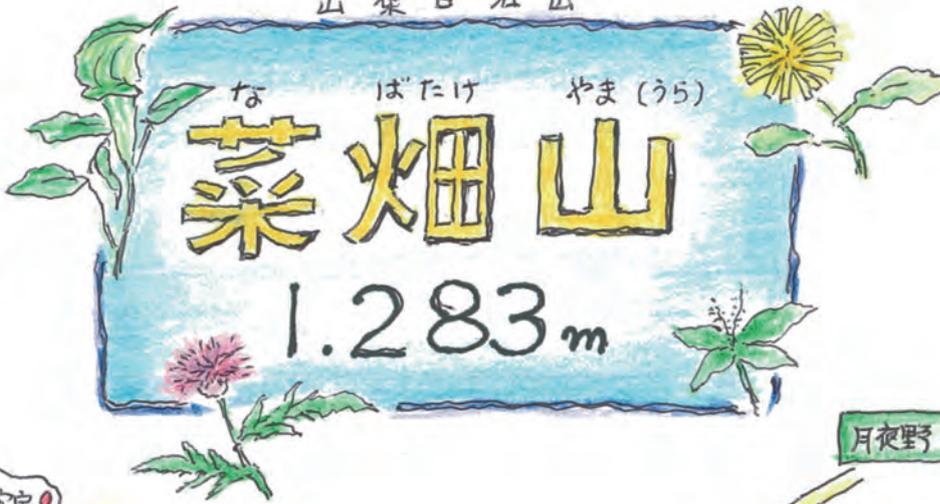
（第2学年創作劇「水と生きる」脚本）

（平成25年10月 中学校文化祭で上演）

〈掲載にあたって〉『巖道峠』とは、道志小学校 久保分校でかつて上演された、道志の昔の暮らしを題材にした連作劇です。私は以前、脚本を一冊にまとめた本を読み、先人の暮らしが生き生きと描写された物語に圧倒されました（DVDにもなっています）。その新作が何十年かぶりに道志中学校の文化祭で発表されたこと知り、なんとかして読めないものかと中学校に問い合わせたところ、快く脚本を探し出し

またがり、  
 にある。  
 望は良く  
 体山・富士山  
 なブナ林。  
 朽化のため  
 の椅子のみ。

山梨百名山



月夜野・県境 →

菜畑山登山コースは曙橋や和出村から以外にも朝日山・ブドウ岩の頭・今倉山・やぐら沢聖由などいろいろある。和出村からの林道を車で終点まで行くとわずかな時間で山頂に立てるか、林道は舗装されてはいるが狭く急カーブが多いので道路状態も良いとは言えないのであまり勧められない。大雨、台風のおとなどは役場などに向い合わせてほしい。



画 K-CO 2017.6

連載

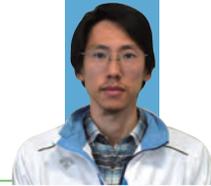


# 協力隊だより

15

このページでは、地域おこし協力隊の活動を報告していきます。

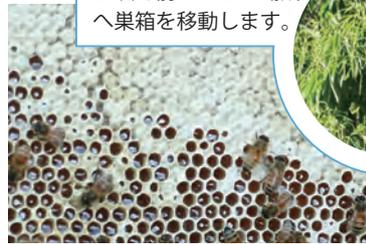
抱井昌史



ア カシア（ニセアカシア。別名ハリエンジュ）の白い花が咲いています。今が一番ミツバチ達が活発に蜜を集める季節です。ど

んどん溜まっていく蜜や、増えていくミツバチ達のようにすをこまめに観察して、ミツバチ達が働きやすいように、お世話しています。よく働いてたくさん蜂蜜をつくってくれる、強いミツバチを育てることが目標です。

香りにクセのある栗の花が咲く前にほかの場所へ巣箱を移動します。



蜜がいっぱいになると白い蓋をします。搾る時にはこれをはがすのが大変です。



養蜂 @野原

6/2 am5:00 蜜の溜まった巣板を回収

早朝、蜜の精度が一番高い状態のときに、巣箱から蜜の溜まった板を取り出し、空の板を補充する作業をします。昼間巣に集められた蜜は、夜の間にミツバチ達が羽であおいで水分をとばすことで、早朝には濃縮されています。板を回収したら、今度は蜜を絞る作業が待っています。



@川原畑

女王蜂のさなぎ(王台)が次々できるので、潰します。この巣箱では女王蜂がいなくなってしまったようなので、形の良いものを残してようすを見ることにしました。



花粉を蜂蜜で練ったものをえさとして与えています。



畑 @戸渡

養蜂のほかに、畑を借りていろいろな作物を育てています。最近ではハウスでつくったレタスが収穫をむかえ、道の駅などに出荷しました。ブロッコリーも育ってきています。

七瀧 佳至



昨 年に引き続き、野菜づくりはレタスの収穫が始まり、道の駅などに出荷しています。単価の高

いニンニクなど、販売先や売れる野菜を考えながら、効率的な農業を模索しています。農業一年目の昨年は販売にはなかなか結びつかなかったため、今年は売れるものがたくさん出来るよう、さらに試行錯誤を重ねていきます。



畑 @川原畑

マルチには発芽した人参、隣りにはレタスが育っています。川原畑で数ヶ所の畑をお借りして、佐藤進さんと一緒にニンニクやレタス、玉ねぎ、人参などをつくっています。



畑 @川原畑

6/2 am 焼耐用のサツマイモの苗植え



ニンニク畑。伸びて来た花芽は摘み取ります。摘み取ったものは捨てずに、野菜炒めなどでおいしく食べられます。



「道志村ひゃくしょう会」が商品化し今年で4年目となる道志村産芋焼酎「御正体山」。原料のサツマイモの栽培を協力隊も担当しています。この日は進さんに教えてもらいながら4人でおおよそ2000本を植えました。マルチに触れた葉が焼けないよう、土をかぶせます。



収穫を迎えたレタス（正面）と玉ねぎ（手前）の畑。右奥には、昨秋に種をまいた玉ねぎの苗が育っています。

鳥澤 拓太

今

年から戸渡に畑を借りて、開墾し、ジャガイモやサツマイモ、キクイモを育てています。昨年は農作物の加工



について検討していましたが、今年は作物を育てるところから挑戦しています。自分でつくった野菜を出荷すること、加工品の開発が目標です。初めての農作業なので、日々勉強しながら取り組んでいます。

斜面を開墾したキクイモ畑。発芽したキクイモは雑草のような姿です。背丈を越えるほど高く育つそうで、成長が楽しみです。



畑 @戸渡1

5/31 am10:00 夏野菜の苗を植える

おすそ分けして頂いた夏野菜の苗を畑に定植しました。ズッキーニやトマトです。と年にはジャガイモが順調に育っています。向かって右からメークイン、キタアカリ、男爵です。左手のマルチにはサツマイモの苗を植えました。根切り虫がいるので対策を考えています。農作業をしていると、近所の方が声をかけてくださるので励みになります。



メークインの花。



元は川原だったというこの畑からは、巨大な岩や拾いきれないほどたくさんの石が出て来ました。開墾に1週間くらいかかりました。



開墾のとき、長くて太い根を掘り出すのが大変だった草。今もまだ残っていますが、いずれさらに開墾して畑を広げ、加工用の野菜を栽培したいです。



畑 @戸渡2



# 手造り 遊び用具 ⑤

しぺいごまを地面において、回す  
もので、こまを横からたたいているうちに  
こまが回り始める。後もたたき続ける



回すもの  
細い棒の先に布き  
れか、藤の皮を細く  
さいたものをハタキの  
ようにしぼりつける

## 作り方



# しぺいごまの作り方と遊び

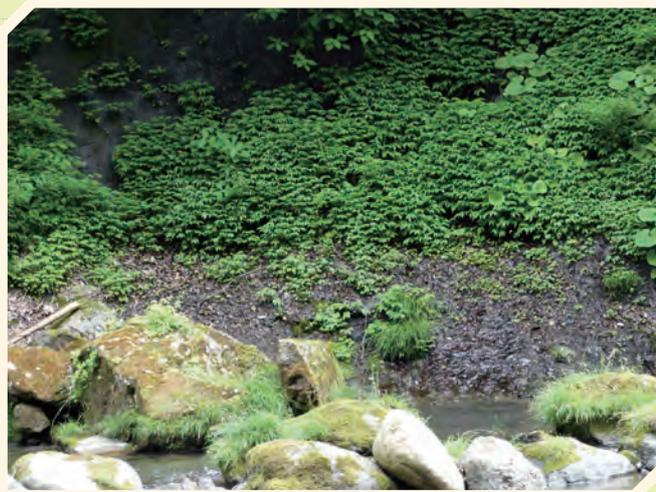
果・屋外

作画 仲井義昭

# 野の幸 山の幸

## 第1回 ミズ (ウワバミソウ)

身近で採れる野山の恵みをおいしく味わう方法を研究します。初回は今が旬の「ミズ」。東北ではよく食べられています、この辺ではあまりなじみがありません。どんな草なのでしょう。道志にもあると聞き、探しに行きました。



道志川の下流、川に降りると、日陰の湿った崖を覆うように一面に群生していました。こんなにあるとは驚きです。台風などで川が増水すると流されてしまうそう。水とともにあり、みずみずしい姿は、ミズという名前がぴったりです。(つたくさん採りたくなってしまうので採りすぎ注意。足元注意。)



きれいな葉を捨ててしまうのがもったいないですが、茎だけを食べます。太い茎はすじがあるので皮をむきます。



塩を少し入れて柔らかくなるまで茹でます。火が通ると、赤みがかった茎の色が、みるみる真っ青に変わっていくのがなんとも不思議です。かつおぶしとショウガ醤油でいただきました。クセが無く、シャキシャキして、水気があります。マヨネーズと食べるとアスパラのようです。

ヌルヌルしたイメージのあったミズですが、たたいても粘り気はでませんでした。もう少し成長したものでないと駄目みたい。秋になると実も食べられるとか。一体どんな実になるのでしょうか？



採集・調理指導：レストランたんぼぼ 文・写真：香西恵

# お仕事拝見 ⑤ (有)手仕事工房 どうし経営 山本 エリさん



夫婦二人三脚でジャム会社を立ち上げて10年近くになる。地元の野菜をベースに多種のジャムやたれを開発。二人とも道志育ちではないが、道志で知り合って結婚。現在5人家族。仕事も軌道に乗り、今は「ボランティア」活動のお手伝いも。これからは、村民の皆さんとの交流を通じて楽しい生活を送りたいと思っています。

作画 仲井義晶

## みなもと体験館イベント参加 ドキドキワクワク体験コーナー ⑤

憧れのスローフード体験、木工体験。道志村に移住してきた私にとって、みなもと体験館でのイベントは毎回未知の事でいっぱい！ 私のドキドキ、ワクワクをこのコーナーで紹介します。

### 五感で楽しむ木工体験 ひのきん「桧琴」

みなもと体験館では通年、木工体験が出来る。中でもキットを使った木工は大人も子供もちょっと空いた時間にも楽しめる。いくつかあるキットの中で今回は道志村の木を活用している「ウッドクラフトもっくん」から提供されているキット「桧琴」を使ってペン立てを作った。

キットの袋を開けるとフワ〜と桧の香りが漂ってくる。いい気持ちと思いつつながら、木板、1枚1枚上下間隔を見ながら机に並べる。この上下間隔が完成した時に、予想もしない感動を引き起こすのだ。それぞれの板の木目が美しい。机の上での設計が終われば組み立て作業。ペン立ての形にする。その後は個人個人の好み。木の実を貼り付けてもいいし、



絵を書いてもいい。私はどんな捨猫でも面倒を見てしまうという三毛猫「もみじちゃん」を思いながら、木片の色調で目と鼻を作り、顔を描いた。1時間もかからず完成と思いきや、ここまでの作り方を指導してくださった体験館のスタッフの方からおもむろに1個のビー玉を渡された。???と思った所、ペン立てに入れてくださいとの事。これで完成との事。ビー玉入りのペン立てを廻すと「カラコロン」何とも良い心地の音色。

木の高低があるので木琴(シロフォン)の原理と同じような音色が出るのだ。板が長いほど、低い音を奏でる。短い板はその逆で高い音を奏でる。世界にひとつの「シロフォンペン立て=桧琴」を持ち帰る事が出来、五感も楽しみ、とても豊かな時間を過ごせた。(佐藤八重子)

